

進路だより



福島県立相馬支援学校
進路指導部
令和7年3月18日発行



高等部卒業生の進路について



3月7日に高等部卒業生20名が卒業しました。卒業生の進路先は以下になっております。日々の授業や実習で学んだこと、学校生活や家庭生活の一つ一つの積み重ねが進路へとつながったことと思います。今年度、企業就労は7名、福祉就労は13名となっています。

令和6年度 進路状況【高等部】

種別	進路先
企業	フレスコキクチ北店・東原町店 カインズ原町店 カワチ薬品相馬店 相馬郵便局 薬王堂山元 SC 店 ヨークベニマル相馬黒木店
就労継続支援 B 型	スマイルセンター ミッキーズハウス 工房もくもく ビーンズ あさ家 フュージョンアグリ
生活介護	スマイルワークエール あーす

社会生活で大切なこと

相双障害者就業・生活支援センターから

- 簡単に休まない
- 挨拶・報告・連絡・相談
- 目標をもつ
- 自分にできることを増やし、
自信をもつ

かいしゃ こえ ねが 会社からの声：みなさんにお願いしたいこと

- ちこく けっけん そうたい おお こま
遅刻、欠勤、早退が多いと困ります
- わからないことは聞いてほしい
- しごと ほうこく
仕事が終わったら報告してほしい
- こま とき そうだん
困った時は相談してほしい
- しゅうしょく かぞく しえんきかん ひと せいかつめん しごとめん きょうりょく
就職してからも家族や支援機関の人には生活面や仕事面で協力してほしい

一部 平成26年度福島市就労部会障害者実態調査参考



進路は、小学部段階から始まり、仕事を「休まない」ためにできることは、「早ね早おき」など日々の基本的な生活習慣です。

挨拶やルールなど、すべて小学部からの一つ一つの積み重ねが大切だと思います。

*企業就労、福祉就労（就労継続支援 B 型、生活介護等）ともに、社会生活で大切なことです。



「障害者雇用とは・・・」

本校の卒業生の企業就労は、「障害者雇用」という枠で就労しています。「障害者雇用」とは、障害者等が希望や能力、適性に応じた雇用の場に就き、地域で自立した生活を送ることができるような社会の実現を目指す雇用です。また、雇用形態は、契約社員、パートなど様々です。実際、地域の企業の「障害者雇用」は、すべての企業が障害者雇用をしているとは限りません。福島県の最低賃金は、令和6年10月に900円から955円に引き上げされました。それにより、企業から求められる力は大きくなっているとされています。

「個別の移行支援会議とは・・・」

高等部卒業後、福祉サービス事業所を利用する生徒について、学校での様子、合理的配慮事項などの情報を卒業後の関係機関に伝えます。学校生活から社会生活に移行し、安定した生活を図るための大切な会議となっております。会議には、本人、保護者、利用する事業所、相談支援事業所、担任、進路担当が参加し、その際に、利用について申請の手続きの確認もしております。今年度は、2月に実施し、生徒一人一人の情報をお伝えし、本人も卒業後のイメージをもつことができました。



「卒業後のアフターケア」

卒業後のアフターケアとは、卒業生に対する支援を積極的に行い、職場勤務や福祉サービス事業所での生活の定着を図ります。その期間は、2年間を目安としています。4月上旬、産業現場等における実習中や夏季休業中など必要に応じて行っています。卒業した生徒達を今後も見守っていきます。

4月から社会生活
スタート！



「ハローワーク相双の見学」

高等部1年1組では、「ハローワーク相双」に校外学習に行きました。生徒たちは、見学や職員の方による説明を通して、ハローワークの役割やできることを知ることができました。また、求人検索の体験をした際には、自分の住んでいる地域や希望する職種などの条件を加えて検索しました。体験した生徒からは、「思ったよりも沢山の仕事があった。」と感想が聞かれました。見学の後は、「働くために必要なこと」をテーマに職員の方から講話をしていただきました。働くために必要な力や、それらを身に付けるために今から取り組むべきことなどについて話をいただいたことで、生徒たちは普段の学校生活を見直し、学習したことを実践しようとする姿が見られました。

今回学んだことを今後の生活に生かし、目標とする進路実現のために自分の課題を見つけ、改善し向上していくことができるように頑張りたいと思います。

